

日本ロシア文学会主催  
若手ワークショップ

# ポスト革命期ロシア文化のまなざし

## ——革命から大テロルまで

革命後、スターリン体制が確立するまでの激動のソ連に生きた人々の世界観は、どのようなものだったのだろうか？ その「まなざし」は、今を生きる私たちに何を示してくれるだろうか？ アヴァンギャルドや社会主義リアリズムなど、20世紀初頭のロシア文化を専門とする各分野の若手研究者が討論する。

### 【報告】

大武由紀子(北海道大)

「生産芸術運動のピーク(1928年-1930年)とそのフィナーレ(1931年-1935年)——アジテーション芸術家・Г. クルーツィスと「10月」協会」

北井聡子(ロシア国立人文大)

「1920年代ソ連における「新しい女」・性・家族」

古宮路子(日本学術振興会)

「書きかえられた結末——オレーシャ『羨望』とポスト革命期ソ連の検閲」

【コメント】 梶山祐治(東京福祉大)、佐藤貴之(東京外国語大)

【司会】 伊藤愉(北海道大)

2019年3月30日 土 14時より 参加無料・事前申込不要  
早稲田大学 戸山キャンパス 36号館 6階 681教室

代表者 古宮路子(日本学術振興会) アドヴァイザ 八木君人(早稲田大)



Facebookページ(「ポスト革命期ロシア文化のまなざし」で検索) <https://www.facebook.com/postrevolution/>